

平成28年4月1日

平成28年度の高知追手前高等学校経営方針について（本校）

高知追手前高等学校

校長 池 康晴

第2期高知県教育振興基本計画に謳われる基本理念～目指すべき人間像～「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち」、「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材」に沿って、「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を目指す。

1 学校の校風（精神）

質実剛健と文武両道の精神

2 学校の教育重点目標

- (1) 人間尊重の精神の育成
- (2) 学力・体力の向上
- (3) 秩序ある生活の確立
- (4) 環境の美化（環境保護の精神を養成）
- (5) 国際人としての素養の涵養

3 S I（スクール・アイデンティティ）

○ 将来を見据え、次代をリードする人材の育成

- (1) 科学技術の発展を支える人材の育成
- (2) 国際力のある人材の育成
- (3) 地域を支える人材の育成
- (4) 社会性の涵養

4 学校経営の基本方向と対策

(1) 質実剛健と文武両道の実践、奮闘努力の精神の醸成が学校経営の基本

- ・ いつまでも変化しない教育の本質を忘れない
- ・ その中にあっても、新しく変化を重ねているものを取り入れる

(2) 学力・体力の向上と進路実現

① 授業第一主義（あたり前のことをあたり前にする、そして一流にする）

- ・ 授業の質を上げ、基礎学力の定着、学力・体力の向上を図る
- ・ 家庭学習時間を確保し予習、授業、復習のサイクルを確立する

② 生徒の思考力・判断力・表現力などの能力を高める

- ・ 探究的な授業を展開するため、校内研修（高等学校課「教師力アップ事業」などを活用し外部講師を招聘）の充実を図るとともに、校外研修への積極的な参加や先進校視察などを行う。これらを通して教員の教科指導力や進路指導力を高める
- ・ レオプロジェクトの工夫（英語ディベート大会、課題研究、防災教育などにおいて、プレゼンテーションやグループ討議・活動を取り入れる）

③ 学校図書館を活用する

- ・ 読書活動の啓発、推進に努める
- ・ 読書活動はもとより、授業やレオタイムなどにおいて、情報収集や調査、研究の目的で学校図書館を活用する（生徒の進路選択や課題研究など）

④ 主体的に学習に取り組む態度

- ・ レオプロジェクト（総合的な学習の時間や LHR などの全体計画：キャリア教育）を充実させ、人の役に立ち、周囲の人々をも幸福にしようとする「志」を育む
- ・ 「志」の実現に向けて、主体的に学び、行動しようとする態度を育む
- ・ 県教委のキャリアデザイン事業（大学や企業との連携協働）の活用

(3) 人間尊重の精神の育成と秩序ある生活の確立

① 生徒の命と尊厳を守る

- ・ 教職員は、厳しさの中にも人間味あふれる温かい指導を展開する

② 道徳教育、人権教育を充実させる

③ 学校行事や部活動を充実させ、協調性や責任感、連帯感を育成する

④ 保護者とも協力しながら、基本的な生活習慣を確立させる

⑤ 服装、挨拶、清掃などの指導を通して規範意識を育てる

⑥ 高知追手前高等学校いじめ防止基本方針を策定し基本認識を共有する

- ・ 生徒が安心して学校生活を送り、自他ともに大切にできるよう、いじめを抑止し人権を守る土壌を育む

⑦ 生徒へのサポート体制を確立する

- ・ 学校生活の中で支援が必要な生徒への体制づくり（生徒支援委員会）

(4) 社会性（シチズンリテラシー）の涵養

- ・ 「私たちが拓く日本の未来」（総務省、文部科学省）に沿って、3年間の指導計画を策定し、生徒の政治的教養を育む（公職選挙法等の改正に伴い18歳以上の生徒に選挙権）
- ・ 校内での選挙活動や政治的活動の制限や禁止、休日等の校外での活動のあり方について、生徒や保護者に周知する

(5) 保護者や地域から信頼され、支持される学校づくり

① 保護者や地域、中学校への情報発信

- ・ 学校説明会や学校案内、学校便り、ホームページの充実（各分掌に情報担当係を置き掲載内容の取捨選択、更新を行う）など学校からの情報発信によって保護者や地域、中学校の本校への理解を促進する

② PTA活動の充実・チーム追手前

- ・ 学校の教育目標を達成するため、生徒や保護者、教職員のベクトル合わせを行う
- ・ PTA 総会、PTA 委員会、学年 PTA、PTA 研修など PTA 活動の充実を図る
- ・ 生徒同士がお互いを高め合って、学校生活（学習や部活動、学校行事）を送る
- ・ 生徒、保護者、教職員が連帯感や帰属意識を持てるような学校とする
- ・ 校友会（卒業者の会）への情報発信に努め、本校教育への理解を深める

(6) 遠隔教育における学校体制の構築と生徒の能動的な学習を支援する汎用的な学習指導方法の研究（文部科学省研究指定事業 H27～29）

- ・ 一部の科目や総合的な学習の時間などにおいて、教育ネット、情報機器を使って、本校（配信）と分校（受信）で同時に授業等を展開する（遠隔教育）研究に取り組む
- ・ 2年目は、化学基礎（2年生）と数学探究（3年生）ともに2単位を通年で実施する
- ・ 配信側には生徒はおらず、本校の教員は受信側の生徒に対してのみ教育ネットを活用した授業を行う
- ・ 学校行事などの関係で、授業ができない場合は、受信側のサポート教員が授業を行う
- ・ 今年度は、本校の教員と分校のサポート教員で協力して授業を進め、評価も行うが、単位認定は、分校の教員が行う

5 服務規律の確立

公務員の倫理基準は遵守があたり前、教職員として身を立てる我々にとってはそこがスタートラインである